

## 希学園 第407回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第407回公開テスト 小6国語 解説動画(2026年4月12日実施)	<a href="https://vimeo.com/1181992630/f4c5425b87">https://vimeo.com/1181992630/f4c5425b87</a>

1 a 調達

b 防護

c 極

2 エ

3 (記述題)

4 I ウ II ア III エ IV イ

5 ア

6 隕 体

7 A イ B ア C ア

8 ウ・エ

9 月の家の人気度

10 家の中から

11 ウ

2

1 a 再生

b 確信

c 不協和音

2 (記述題)

3 I オ II エ III ア IV イ

4 天山

5 (記述題)

6 ウ

7 ウ

8 A ず B ぞ C き D き

9 ア

10 イ

1

3 月の重力は地球より弱いので、天井を高くしない  
と飛び跳ねて天井にぶつかるから。

(同意可)

2

2 天山の過去の演奏を見せ、本来の天山のピアノの実力を知ってもらおうと思ったから。

(同意可)

5

5 天山がピアノを弾けなくなったり知り、動画撮影も無理だと思いがっかりする気持ち。

(同意可)

【配点】	
その他	1 1 3 7
	2 2 2 8
各4点×14	各2点×13
各6点×3	各2点×13
各4点×56	各2点×13

① (林公代「宇宙にヒトは住めるのか」より) ※設問の都合により一部表記を変更しています。

- 1 a 「調達」は必要なものを取りそろえること。「達」の右側の形に注意しよう。b 「防護」は危害・災害などが及ぶことを防ぎ護ること。「護」の形に注意しよう。c 「極」は地表と地軸が交わるところ。南極や北極でおなじみだろう。
- 2 不適当なものを選ぶことに注意すること。エは「間違いなく」としているのが誤り。本文では「その空間は住人にとって気持ちいいのだろうか」という筆者の疑問であった。ここでは反語ほどの強い否定は感じられない。
- 3 「重い靴を履けば、飛び跳ねる高さが抑えられるから天井がそんなに高くなくてもいい」とあった。裏を返せば「高く飛び跳ねてしまふから天井を高くしている」ということになる。なぜ高く飛び跳ねるかという月と月は重力が地球の6分の1だからである。
- 4 I: 「たくさんの空気が必要」という問題点に加えて別の問題点を挙げているところなので「そして」が入る。II: 谷さんの意見に対する田中さんからのアイデアが出てきた流れなので「すると」が入る。III: 次の話題を提示しているところなので「では」が入る。IV: 直前の「地球が見える位置にあるかどうか」を「『アースビュー』かどうか」と言いかえているので「つまり」が入る。
- 5 「天井がそんなに高くなくてもいいし、トレーニングにもなって」と、「重い靴」を履くことで一気に二つのメリットが得られることが書いてあるので「一石二鳥」が入る。
- 6 何が「宇宙からやってくる」のかと考えて、同段落の内容を読めばよい。「隕石」という内容がつかめれば、あとは字数に合うものを見つければよい。
- 7 アは「可能」、イは「受け身」、ウは「自発」、エは「尊敬」である。「れる」「られる」はこの四つの意味を覚えておこう。
- 8 「これらのことから月の家は、日陰や地下に作った方がいいと考えられる」とある。「放射線」や「小天体」は「日陰」では防げないので、ここでの「これらのこと」は「激しい温度差」の話であると考えられる。
- 9 次の段落に「月の家の人気度は地球が見える位置にあるかどうか」で決まるかもしれないという話を書いてある。本文冒頭でTSXの皆さんと月の家について話し合っていることから、筆者も月の家を建築する計画に携わっているということが読み取れる。
- 10 どのような問題があるのかを気にしながら読み進めていくと、同じ段落で「具体的には」と示されている。
- 11 アは本文中の「月では空気は作るか地上から運ばないといけない」と合わない。イは「厚さ約3〜4mの盛り土で覆う」という話が無視されている。エは壁を二重の構造にし、部屋と外との間の空間を0・5気圧にするという話であったので間違っている。

② (長谷川まりる『この世は生きる価値がある』より)

- 1 a 「再生」はこの場合録画した動画を装置などにかけて、元の動画を出すこと。b 「確信」は確かであると信じること。「信」を「心」としないように気をつけよう。c 「不協和音」は同時に響く二つ以上の音が、協和融合しない状態にある和音。
- 2 この後、卓真は「こっちのが早いや。これ見て」と言い、自分のスマホを使って天山のピアノ演奏動画を見せている。ドレミファソラシドを弾いて「弾けてるでしょ」と言っている天山に、本来の実力を見せてやろうとしているのである。
- 3 I 「ぎよっと」: 天山の演奏を見て驚いている様子を表す。II 「きよとんと」: 「再生回数三十万回」のすごさがわかっていない様子を表す。III 「ふっと」: 「にいつと笑って」から「顔をくもらせ」という表情の変化を表す。IV 「ほくほくと」: 天山が死んだということを知らずに、ピアノも弾ける状態であることがわかって満足している卓真の様子を表す。
- 4 直後に「これをやめるなんて、信じられない」とある。「やめる」と言いたしたのは「天山」本人である。「名前」という指定があるので注意しよう。主人公は地の文でも天山と呼んでいるので、姓である「高梨」にする理由もない。
- 5 「ため息をついて」「しらーっとした目」などの様子と、直後の「ピアノ、弾けなくなってんじゃん」という発言を結びつけて考える。
- 6 直後の卓真の発言「じつは記憶がないんじゃないやなくて、別人と入れ替わってたりして」が手がかりである。「別人」であることを示すのはこの選択肢であれば「化け物」しかない。「昔話の農民みたいに」というのも、妖怪のような化け物が人間に化けていたというような昔話を想像すると答えが決まりやすい。
- 7 「警告にきた。その体で目立とうとするな」という発言から、ピアノの動画配信をやめさせたいという気持ちがこの時点では最も強いと見るべきであろう。
- 8 A 「さしずめ」: 「いろいろなことを考えてみて、結局まあこんなところだろう」という様子。言ってみれば「古くは「づ」であったが、現代では「ず」で表記するのが正しいので気をつけよう。B 「おぞましい」: いかにもいやな感じがする。ぞっとする。C 「きびすを返す」: 後戻りする。引き返す。D 「やきもき」: あれこれと気をもんでいらいらするさま。
- 9 「考えられないもの」を選ぶことに注意しよう。主人公がピアノを弾けるかどうかを試してみても弾いた曲は卓真も知らない曲であったことから、天山本人が弾いていた曲ではないことがうかがえる。卓真がその演奏を聴いた直後に「別人と入れ替わってたりして」と発言していることから、主人公は天山本人ではないことが示唆されている。また、主人公が天山として生まれ変わる前を知っているはずのキツネが主人公に対して「ニセモノ」と言っていることや、「あなたのピアノは、天山のピアノとはまったくちがう」と言っていることも主人公が天山本人ではない根拠と考えることができる。
- 10 アは「気が引ける」がおかしい。まったくそのような様子はない。ウは「だましていることに快さを感じており」がおかしい。別にそのこと自体を喜んでいるのではない。エは「褒めてもらわないと割に合わない」というのが言い過ぎである。